

アカデミックフェス 事後レポート

企画名： 日米比較に考える日本野球の未来像

—企業・地域・学校の関係—

企画名（英語）： Comparing Japanese and American Baseball in Projecting the Future of Japanese Baseball: Relations between businesses, communities and schools

時 間： 13:00~14:40

会 場： アカデミーコモン ROOM-F (A4会議室)

登壇者： 澤井和彦 (商学部准教授)

釜崎太 (法学部准教授)

川上憲伸 (元中日ドラゴンズ)

二宮清純 (スポーツ・ジャーナリスト)

川口啓太 (商学部准教授)

開催概要：

近年、日本のプロ野球は、ビジネス改革によって観客動員数を大きく伸ばしてきた。だが、同種の改革によって市場規模を6倍近くにまで拡大したアメリカとは対照的に、日本の市場規模の拡大はごく僅かなものにとどまっている。そればかりか、未来の野球を支える競技人口も減り続けているのである。本企画では、日米の比較を通して、日本野球の未来像について議論した。

開催概要（英語）：

The commercialization of Japanese baseball in recent years has led to a huge rise in spectators. Yet, compared with similar commercialization in the United States, which has led to an almost six-fold expansion of the baseball market there, the scale of Japan's market expansion has, in contrast, been minute. Moreover, athletes, who are the future of Japanese baseball, are steadily declining in number. This project discusses the future of Japanese baseball by comparing the sport in Japan and in the United States.

開催内容：

冒頭では、澤井和彦准教授 (商学部) から、日米の野球比較を通して、今後の日本野球界への示唆を、特に企業・地域・学校の関係を中心に展望しようとする本セッションの主旨が説明された。

川上憲伸氏 (元中日ドラゴンズ・アトランタブレーブス) と二宮清純氏 (スポーツジ

ジャーナリスト)の対談では、川上憲伸氏の日米での体験を中心に、日本のプロ野球とメジャーリーグとの違いが語られた。例えば、アメリカはどこのスタジアムも個性的で、フィールドそのものに勾配がついているような場所もあるなど、実際にプレーした選手ならではの違いも示された。日本の没个性的なスタジアムが「クッキー・カッター」と呼ばれているという二宮清純氏の指摘も印象的であった。また、アメリカのマイナーリーグのスタジアムが地域住民の交流の場となることで観客を集めているという具体的な事例の紹介は、本セッションの主旨と合致するものであった。

この対談を受けるかたちで、釜崎太准教授(法学部)からマイナーリーグの球団がいかなるかたちで地域の交流の場を提供しているのか、企業がどのように地域を支援しているのかなど、近年のスポーツ経営学領域の研究成果が報告された。

以上の話を総括しながら、川口啓太准教授(商学部)が今後の日本野球が目指すべき方向性について提言した。第一に、これまで学校を中心に振興されてきた日本の野球も、今後は地域スポーツへと移行していくことが考えられるが、学校の施設を中心としながら、学校と地域の連携のもとに地域スポーツが展開される必要があること、第二に、その際に指導者の養成が重要な課題になるため、日本サッカー協会のような指導者ライセンス制度を導入する必要があること、第三にプロアマの交流を含め、各組織を束ねられるような体制づくりの必要があることである。

フロアからは川上憲伸氏と二宮清純氏への質問を中心に、今後の日本プロ野球が目指すべき方向性などについて真剣な質問が寄せられた。会場に入りきれないほど多くの方々に、競技人口が減り続けている日本野球の危機的状況と未来展望について考えて頂けたことが何よりの喜びであった。関係各位に心より感謝したい。

以 上